

「流動層シンポジウム賞(技術部門)」の受賞について
2007年度 化学工学会粒子流体プロセス部会

当社(社長:西尾 進路)および新日本石油精製株式会社(社長:大野 博)は、「磁気分離機によるFCC廃触媒削減技術の開発実証化」技術について、社団法人化学工学会粒子流体プロセス部会から、2007年度「流動層シンポジウム賞(技術部門)」を受賞しましたのでお知らせいたします。

社団法人化学工学会は、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を社会に有機的に還元するための中心的学会として活動することを目的に、1936年に設立され、その専門機関として粒子・流体プロセス部会は2002年に設置されました。

当社グループでは、石油精製設備である「FCC(Fluid Catalytic Cracking)装置」で、重質油から主としてガソリンを生産しています。石油の効率利用を目指し、近年ではFCC装置の原料油に残渣油を用いていますが、その精製処理の過程で、残渣油中の重金属が装置内の触媒に堆積します。これにより触媒の性能が著しく低下するため、定期的に触媒全体を交換する必要があります。そこで当社は、(財)石油産業活性化センターからの支援を受けて、高勾配磁気分離機*を利用して劣化した触媒のみを分離する実証技術を、2005年に世界で初めて開発いたしました。その後、2006年3月から仙台製油所のFCC装置で実証化運転を続けてまいりましたが、この度、触媒の使用量を約30%削減することが可能となり、年間600トン以上の排出物削減に貢献出来ることが分かりました。今回の受賞は、その実績を高く評価されたものです。

当社は、グループ理念として「エネルギーの未来を創造し、人と自然が調和した豊かな社会の実現に貢献します」を掲げており、今後もたえず新しい発想で未来に挑戦し、地球環境と調和したビジネスを創造することで、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指してまいります。

* 高勾配磁気分離機:磁気分離とは、液体や気体などに分散している粒子を、磁気を用いて分離あるいは浄化する技術。強磁性ステンレスを利用するとさらに高度な磁気分離が可能となり、高勾配磁気分離法と呼ばれている。

記

- 1.受賞内容:2007年度 化学工学会粒子流体プロセス部会 「流動層シンポジウム賞(技術部門)」
- 2.受賞対象:「磁気分離機によるFCC廃触媒削減技術の開発実証化」
- 3.受賞者:迫田(さこだ) 尚夫(ひさお)(新日本石油株) 中央技術研究所 燃料研究所 プロセスグループ)
鈴木(すずき) 辰(たつ)弘(ひろ)(新日本石油精製株) 仙台製油所 計画グループ)

以上